

ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学

こども未来 学科

氏名 中山 政弘

1. 教育の責任

佐賀県内の短期大学・大学で構成されている「大学コンソーシアム佐賀」の事業の一つである、子ども発達支援士（基礎）資格取得につながる学びとして、様々な講義が各短期大学・大学で開講されている。各短期大学・大学の特色はそれぞれにあるものの、様々な講義に共通しているのは、発達障害の特性を理解したうえで適切な支援を行うことができる職業人の育成のための内容であると考えられる。

特に発達障害の特性をふまえた支援の進め方については、保育園・幼稚園・こども園だけでなく、児童発達支援事業所においても、大変重要なスキルの一つである。また、特に短期大学においては保育実習として保育園や施設での実習を経験した上での理解を深めるために、後期授業として開講されている。発達障害を持つ子どもと関わる場面の振り返りやつながりを意識した内容を伝えることが必要であると考えます。

2. 教育の実施における理念

発達障害を持つ子どもだけでなく、幼児教育ひいては人間への関わりについて学びを深めていく際に、授業に盛り込まれている内容は、共通項として挙げられるような基本的な内容であったり、一部で観察されることがあるような応用としての内容をいわゆる浅く広く説明されていると思われる。基礎を学ぶ講義としてそのような内容に沿って説明を行うことも意義があることではあるが、その後実際に関わる上では、講義内容は一部に過ぎないということを理解できるように、理論と実践のバランスという視点から学びを計画することが重要であると考えられる。

そのため、発達障害についての支援の進め方を学ぶ学生にとって、できるだけイメージを持ちやすい内容を提供する必要があると考える。後述するように、特別支援教育がスタートしている中で学校生活を経験して

いる年代であるため、一部の学生はクラスメートや友達に発達障害を持つ子どもがいたと報告している。そのような身近な存在であればイメージしやすい特性についても、これまでの関わりがほとんどない学生にとってはイメージすることも難しい内容もあると思われる。さらに身近な存在だったとしても改めて様々な行動が障害特性を背景にしているものであることや行動が起こるメカニズムについて説明することで、新たな理解が深まる機会にもつながると思われる。そこで、本授業は、理論と実践のバランスと、発達障害の特性につながる様々な行動についてイメージしやすくなるように説明することを中心に、展開していくことを基本理念としている。

担当者は実務家教員として、これまで医療機関や教育・保育など様々な場面での発達障害を持つ方々やその保護者と関わる機会を得てきた。そこでの経験を基に、理論で説明されていることが実際場面としてどのような行動として表れるのかということや、その視点をふまえた支援の考え方を考えるポイントはどこなのかという視点で説明するように心がけている。

3. 教育の方法

発達障害といっても、さまざまな障害名や状態像があると思われる。それらについてできる限り網羅していくためには全体像を理解してもらう時間や相互の関連性について理解してもらう時間が必要である。そのため本授業では、自閉スペクトラム症を中心として授業を展開するようにしている。まず、自閉スペクトラム症 ASD の基本的な理解に始まり、関連する障害特性という視点から、注意欠如多動症 ADHD や学習障害 SLD といったその他の発達障害と様々な比較を行いながら改めて学びが深まるように授業を構成している。

次に支援の実際についても、保育場面などでの様子や支援のあり方など具体的な内容を伝えつつ、そこ

から特性に基づいた理解とその支援の方法論(冰山モデルや行動分析)について説明し、それらの内容を深くつなげて理解できるように構成している。

その上で、支援を考える視点や基礎的な理論のポイントについて確認していくことを基本としているため、他の授業とは目的が大きく異なっている。

4. 教育の成果

本授業は講義形式で行われるため、基本的には授業内容をしっかり理解できたかどうかについて、授業成果の指標として考えることもできる。いわゆる授業の最終回に内容に関するテストを実施することで理解度を測る方法論である。本授業の成果という視点では、この方法論によって理解度を測定することの意義は十分にあり得ると思われる。しかし、本授業の目的は先述したように、本授業で理解した発達障害を持つ子どもとの関わりを実習において進めていく上で、実践とつなげて考えることができるかということである。また同様にそれまでに開講された「発達障害の基礎」とのつながりを見据えて自分の考えを整理することを大切にしたいと考えている。同時に、近年の大学教育で求められている、自分で考えていく力やその考えを人に伝える力についても練習する機会も必要であると考えられる。

そこで本授業ではレポート形式で評価を行うようにしている。具体的にはテーマを設定し、それに関する自分の考えをまとめるように伝え、自分なりの考察を行うようにしている。レポート形式で文章をまとめていく中では、当然これまで授業で説明した内容についての説明もなされていくため、結果的に授業内容をどのくらい理解できているかを確認することもできるのである。さらにそこから学生自身が授業内で説明した内容のどのようなことに興味を持ったのかということや、そこから考えたことについての道筋を教員も理解できると思われる。文章力については評価の中心には置かず、授業を通して学生がどのようなことに興味を持ち、その興味を持ったことから、どのようなことを考えたのか、また授業内容との関連性からどのようなことを考えられる可能性があるのかなどの視点から、学生自身の学びを文章に現れる思考の足跡をとらえて学びが深まったこと

と今後の学びの方向性が確認できることが本授業の成果であると考えられる。

5. 目標

本授業は、子ども発達支援士(基礎)資格取得につながる学びとして、発達障害を持つ子どもの障害特性の理解をふまえた、支援の方向性の考え方と、それを実際の関わりの中で落とし込んでいくためのポイントを理解したり、検討するような授業を行っている。つまり、発達障害の特性につながる様々な行動についてイメージしやすくなるように説明することを中心に、自分の関わりに反映できるように展開していくことを基本理念としている。

レポートでの内容だけでなく、授業評価の内容やその後の実習の振り返りにおける授業が役に立ったという意見が聞かれたことから、本授業の目的はおおむね達成されたと考えることができる。